

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス バビバレーン福山駅家		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 22日		～ 2026年 1月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2025年 11月 22日		～ 2026年 1月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性や保護者の思いを踏まえた支援計画を作成し、きめ細かな関わりができています	利用時のアセスメントや面談を通して、子どもの特性や保護者の思いを丁寧に把握し、それらを支援計画に反映させている。また、日々の関わりの中で子どもの変化を共有し、必要に応じて支援内容の見直しを行うことを意識して取り組んでいる。	定期的な支援計画の見直しや職員間でのケース検討を強化し、子どもの成長や変化に応じた支援の質の向上を図る。また、専門的な研修への参加を通して職員の知識・支援技術の向上に努める。
2	運動、制作、体験活動などプログラムが豊富で、子どもが楽しみに通所している	子どもが主体的に参加できるよう、運動・制作・体験活動などをバランスよく取り入れ、活動が固定化しないよう工夫している。さらに、子どもの興味関心や発達段階を踏まえながら、楽しみながら成長につながる活動を計画的に実施することを意識している。	活動の振り返りを定期的に行い、子どもの興味関心や参加状況を踏まえたプログラム改善を行う。さらに、外部資源や地域資源を活用し、新たな体験活動を取り入れることで、より幅広い経験の機会を提供する。
3	送迎時やLINE等を活用し、日々の様子や課題を丁寧に伝える体制が整っている	送迎時の対面での伝達に加え、LINE等のツールを活用し、日々の様子や気づきを具体的に伝えるよう努めている。また、保護者が相談しやすい関係づくりを意識し、気軽に声をかけていただける雰囲気づくりを大切にしている。	定期的な面談や相談機会を計画的に設けるとともに、活動のねらいや支援の意図を分かりやすく伝える工夫を行う。また、保護者向けの情報提供や助言の機会を増やし、家庭と連携した支援体制の強化を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	交流活動はあるものの、実施状況や目的が保護者に分かりにくい	地域の公園活動や外出活動の中で自然な交流は行っているものの、交流を目的とした活動として明確に位置づけた説明や発信が十分ではなく、保護者に取り組みの意図や実施状況が伝わりにくいことが要因と考えられる。	地域交流を目的とした活動として位置づけを明確にし、実施内容やねらいをお便りやSNS、活動報告等で具体的に発信していく。また、年間計画の中に交流活動を組み込み、保護者が把握しやすい形で周知していく工夫が必要である。
2	面談や具体的な関わり方の助言を求める声の一部見られる	日々の送迎時や連絡ツールでの情報共有が中心となっており、計画的な面談機会や専門的助言を行う時間を十分に確保できていないため、保護者が支援方法について深く相談する機会が少なくなっていることが要因と考えられる。	定期的な個別面談の機会を計画的に設定し、保護者が相談しやすい環境づくりを進める。また、子どもの特性に応じた関わり方や支援方法について具体的な助言を行うとともに、日常の支援場面を踏まえた情報提供を積極的に行う工夫が必要である。
3	訓練は実施しているが、内容や様子の伝達が不足しているため認知に差がある	避難訓練は定期的実施しているものの、実施内容や子どもの様子、訓練の目的等を具体的に保護者へ伝える機会が限られており、取り組みの全体像が十分に共有できていないことが要因と考えられる。	避難訓練実施後には内容や子どもの様子をお便りやSNS等で具体的に発信し、取り組みが可視化されるようにする。また、非常時の対応方法や連絡体制についても分かりやすく説明し、保護者との共通理解を深める取組が必要である。